

## 復興支援フォーラムニュース No. 54

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫 ([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com)) 中井勝己 (024-548-8313) >  
=====

### <第51回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

11月20日、第51回ふくしま復興支援フォーラムを開催し、21名の参加者がありました。「子ども被災者支援法の現状と弁護士会の活動」について、槇裕康氏（弁護士・福島県弁護士会副会長）から、詳しい報告をいただいたのち、活発な質疑応答が続きました。以下は、提出された文書によるご意見等です。

~~~~~

★子ども被災者支援法に関する福島県弁護士会の取組についてとても心強く感じました。子ども被災者支援法第14条の施策に関する被災者の意見の反映について、これからも被災者の立場に立った意見等を出し続け、被災者の支援をお願いしたいと思います。（N.H）

★子ども被災者支援法は、基本方針策定に際して、パブコメ期間も含め、被災者の感情を無視した背景があり、本法に対する期待もなかったが、槇先生のお話を拝聴して、被害者の実態を把握した素晴らしい法であることを知った。今後は、具体的な施策をいかに充実していくことが大切であることを感じた。（T.K）

★同じ福島でも地域ごとの状況の違いがあるので、1つにまとめるのは、大変だと思いました。（T.H）

★法律自体はとても良い内容だが、具体的な施策を充実させないと意味を成さないものだということが良くわかった。（H.A）

★子ども被災者支援法をどう県内外に広めていくか、この法律を理解し、実現していくために必要と感じました。（Y.I）

★子ども被災者支援法、時効、損害賠償の問題が、いずれも「政治的な問題」という発言が印象に残りました。法律（器）を作っただけでは不十分であり、そこにどのように生命をふきこむかが重要であると思いました。（H.S）

★「子ども・被災者支援法」の条文について、専門家の意見を交えて、詳細に解説していただきまして、感謝申し上げます。（K.F）

★理念法であることをふまえた場合、原発事故そのものへの批判的視座を欠如していることが、今後そのような不都合となるのであろうか？（O.S）

★「子ども被災者支援法」は、県外避難者にとって、大きな関心を持たれているが、残留者にとっては、関心が薄いと感じている。しかし、本法の内容は、残留を選択した者にとって、大きな意味を持っていると感じています。残留選択者が、この法の積極面を最大限生かして、法の改正にまで向かう必要があるのではないかと思います。所詮「法」は、それを支え、活かす市民の力がないと空洞化してしまうと思いました。(T.K)

=====  
【予告】 第53回ふくしま復興支援フォーラム」(2013年12月19日(木) 18時30分～)  
テーマ 「飯館村での放射線汚染調査と初期被曝評価プロジェクトについて」  
報告者 今中哲二氏(京都大学原子炉実験所)  
会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」 大活動室1  
MAX ふくしま4F(福島市曾根田町1-18)

=====  
【予告】 第54回ふくしま復興支援フォーラム」(2013年12月26日(木) 18時30分～)  
テーマ 「エネルギー革命による地域の自立 ～会津電力設立の経験から～」  
報告者 佐藤彌右衛門氏(会津電力株式会社・社長)  
会場 福島市 キッチンガーデン 2階(福島市栄町10-5)  
\*終了(20:00)後、会場の1階のレストランにおいて、ささやかな「忘年会」  
を企画していますので、自由にご参加下さい。(参加費2000円程度)

=====  
【予告】 第55回ふくしま復興支援フォーラム」(2014年1月9日(木) 18時30分～)  
テーマ 「原発事故県外避難者が抱える問題と構造」  
報告者 佐藤彰彦氏(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)  
会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」 大活動室1  
MAX ふくしま4F(福島市曾根田町1-18)

=====  
【予告】 第56回ふくしま復興支援フォーラム」(2014年1月23日(木) 18時30分～)  
テーマ 「東京新聞はなぜ脱原発か」  
報告者 井上能行氏(東京新聞編集委員<福島駐在>)  
会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」 大活動室1  
MAX ふくしま4F(福島市曾根田町1-18)  
=====

「ふるさとの復興（福幸）に向けて

～かーちゃんの力・プロジェクトが目指すもの～

塩谷弘康（福島大学・法社会学）

はじめに

- 原発災害がもたらしたもの：「ふるさとの喪失」
- 被災者・避難者が抱える困難と苦悩
- 生活者・伴走者として

1. プロジェクトの「誕生」

1-1 震災対策・復興支援室の日々

1-2 復興支援に向けて

- 手探りの復興支援 大学らしい「復興支援」のあり方とは？  
「直接支援」から「間接支援」へ
  - ① 「学生に対する支援」と「(支援を受けた) 学生による支援」
  - ② 復興の主体（主役）である住民に対する支援
- きっかけは「凍みダイコンの味」

1-3 プロジェクトの「誕生」

- プロジェクトの「素案」と「原案」
- 福島県緊急雇用創出事業への申請と採択
- プロジェクトの当初理念
  - ① あぶくま地域の復興
  - ② かーちゃんのネットワークづくり
  - ③ 新しい生産・流通・販売のシステム形成
  - ④ 健康、安全・安心
  - ⑤ 新しいコミュニティづくり
- プロジェクトの立上げを可能にした要因
  - ・ 大学・学類側の要因
    - ① 「食」や「農」を通じた地域づくりの実践
    - ② 阿武隈地域との長年のつながり・・・教育、研究、地域連携・貢献
    - ③ 大学・学類がもっている財産 ⇒ 大学が復興に係わる意義
  - ・ かーちゃんたち側の要因
    - ① 女性農業者・起業グループとそのネットワークの存在
    - ② 自立・自律した住民の存在
    - ③ タイミング・時期 「支援される側」からの脱却
  - ・ その他の要因・・・補助金等

## 2. プロジェクトの「展開」

### 2-1 かーちゃんのか・プロジェクト協議会

- 仮設ヒアリングから結いモチプロジェクト（2011年12月）へ
  - かーちゃんのか・プロジェクト協議会（任意団体）の結成（2012年2月）
    - ・ 各種助成・寄附の申請
    - ・ 各種研修
  - 福島県地域雇用再生・創出モデル事業（補助事業）〔2012年4月～2015年3月〕
    - ・ 12人（フルタイム5人＋パートタイム7人）の雇用
    - ・ かーちゃんのか笑顔弁当、健康弁当、各種加工品（漬物、モチ、菓子など）の製造販売、新商品の開発など
      - ⇒ わいわい、生協、いちいでの店頭販売、イベント出店、サポーターなど
  - 事業
    - ① 営利部門
    - ② 非営利（公益）部門・・・自主イベント（さなぶり、収穫感謝祭、結いモチ）、軽トラ市、料理講習会、研修・視察受入れ、緑の里親事業、食の遺産継承事業など
- ※ 事業資金としては、上記補助事業のほか、福島県地域振興課委託事業、JPF、国大協、味の素寄附金、サポーター寄附金など

### 2-2 一般社団法人かーちゃんのか・ネットワークの設立（2012年6月）

- 目的
  - 設立の理由
    - ① 「加工」だけで事業を展開することの困難性
      - ⇒ 「生産」と「販売」を含む六次化
    - ② 法人格をもった組織の必要性（事業・寄附等の受け皿、契約の主体）
    - ③ 大学として営利事業に係わることの限界性
    - ④ 被災者・避難者、生産者との広域連携・交流
  - 事業
    - ・ 福島県地域雇用再生・創出モデル事業（委託事業）〔2012年10月～2015年7月〕
      - ⇒ 12人（フルタイム6人＋パートタイム6人）の雇用
      - ① 産直カフェレストラン「わいわい」の運営
      - ② 農地（約1ha）での農産物生産
    - ・ 「ふくしまキッチンガーデンビル」の運営（独自事業）
- ※ 現在、かーちゃんのか・プロジェクトは、協議会（主として「加工」）と一般社団法人（主として「生産」と「販売」）が車の両輪となって、推進している。

## 3. プロジェクトの意義と課題

### 3-1 意義

- プロジェクトの意義
  - ① かーちゃんたち自身の復興・生活再建 「必要とされる存在」に
  - ② 被災者・避難者自身による被災者・避難者の支援 あぶくま地域と福島の「福幸」

- ③ 食文化・食の遺産の継承 「ふるさと」の再創出
- ④ 避難先でのコミュニティづくり 「住民」としての地域づくり
- ⑤ 新しい連帯と協働・協同 「広域ネットワーク」「新しいコミュニティ」

○ 大学に係わることの意義

- ① 一人ひとりの教員がもっている知識と人的ネットワーク
- ② 大学としての知名度・社会的信頼性
- ③ 大学の施設・設備、事務処理能力
- ④ 人・物・情報をつなぐ結節点
- ⑤ 学生の力

**3-2 課題**

- ① かーちゃんたちの「自立」 等身大の「自立」、精神の「自立（自律）」
- ② 多様なかーちゃんたちの参加 経験・実績、被災状況、想い、今後の選択
- ③ 営利部門と非営利部門の調和・両立
- ④ 多忙化の解消 ⇒ 事業の重点化、効率化・省力化
- ⑤ 将来の組織形態（協議会と社団法人の関係も含めて）と広域ネットワーク化

**おわりに——プロジェクトから学んだこと**

- 「復興」とは？ 「復興支援」とは？
- 分裂・分断を乗り越える智恵と力
- 被災地・被災者としての「責任」